

二十日九月夕刊

## 平局の窓口に動く 年のは瀬の替爲貯金

十二月出入がどうなるか  
昨年より財況稍好轉の模様

不景氣に笞打たれつゝ追ひ大差なく金額に於て一萬円  
詰められた年の暮に於て茲千六百十五圓の増なるも  
許相當の苦しさを窺はれるキは受よりも拂が多かつて  
のは農工商共に中產階級らに反して本年は其の逆例  
しいが同以下に惠まれた時見せゐる次に替爲に於ては  
局匡救の土木事業や年末賞受の口數並に金額共に昨年  
與にホク／＼の俸給生活者同期より減じてゐるのは當  
に現はれた所では昨年より  
それに若干なりとも財況の方の金が他に出ない現は  
好轉を示して來たと云はれて拂の口數金額共に増加  
る近狀は郵便貯金替爲などてゐるのは其れだけ入りが多  
い良さそうな模様である試みに平局の同取扱を上ぐれ  
ば去る十一月の總計は、  
貯金受六三四二口一六八  
五六七圓（前年同期五四  
八一口一二〇四二〇圓）  
同拂一七九二口一五五三  
八七圓（前年同期一七八  
一口一三七七二九圓）  
替爲受一二五四口二六三  
七四圓（前年同期一二九  
六口三〇〇六九圓）同拂  
(前年同期一四三〇口五  
七八五八圓)  
で貯金は受の口數に八百六  
一百四十七圓を增加してゐる  
（前年同期一四三〇口五  
十一金額に於ては四萬八千  
百四十七圓を増加してゐる  
が拂は口數にありて前年と  
が拂は口數にありて前年と  
異なる一時的の策をとるよ

### 平の年内是 學校建築 第三の建築 現在のと

平町は町有土地の賣却及  
八年以内に決済を豫定する諸業  
あるが災害善後策で出縣を度  
在のところ第三小學校の工事  
であつて新學期に四學級ある  
算關係の下協議もある模様

くなつた譯であつて、人月の動態がどうなるか五日間の同取扱及び販売の比較は左記の如く、局の窓口は日に愈よ熾見せて來た。昨年七月に貯金受八四二口二一四圓、一〇九八口四三七六圓、拂三四四九〇圓(二七七〇五六四號)替爲受二六二口四三八四八口八〇七拂二八三口、三〇〇〇(三〇七口九九三四上書孤内は前年同期よりも寧ろ第四小學校の新設派件盡を得策とする意見としての論議に相當の花を撒せるだらうと觀られて、更生指導者講演會来る十三日平第二校で座談會も本縣では國民の更生問題當る各學校長並に市町村部から男女青年團員に對し此の講演會並に

常識講義を貫かうとする力、策略を講じて一口に云へば暴力主義過激な手段で主たるが來る十三日は午前十時から平町第三小學校講堂於て同會を催すことになる。講師は文部省の政務次官農學博士東郷實氏で當日は多數の參集を歡迎する。昨年とから平町第三小學校講堂で當日は多數の參集を歡迎する。野良犬の狂犬病豫防の爲め縣下一ヶ所に行はれる野犬の掃蕩は明治十九年九月二十日から向ふ一週間で平町では同期間野犬を携曳届けられたものに對し二十錢の代價を給して藥殺し尙ほ撲殺夫による撲殺は來る二十日で施行されるので有鑑札などを必ず繫留すること又無理に札犬を隠したものには容赦なく科科に處す。

大事な時 然し昨年 濱二  
農銀の口

崎の永山義守  
重量二百貫餘  
車に積んで運  
作業中前記入  
からすべり落  
となりて即死  
を受けて死體  
れた。  
精神異狀  
井口 昨入  
石城郡飯野村  
財界の不景  
たる不景  
す本社は  
が御後援  
基盤も八百  
基礎づけ工  
讀者各位  
りまし工  
就ては總  
中であり  
購入致し  
場設備を  
より早く  
も方がへしが  
中であります  
と云ふが成程  
智慧の出ぬ  
をかけ  
と云ふが成程  
込ぢやつた此  
に隣りの地主  
騒ぎだ昨夜の  
が呀れる處へ  
きりなしよ思  
ちやあ仕  
ももぐり  
と  
切つてこ

夫に死別後精神に少しもから注目が昨八日午後二時お下駄になつたのとなり近隣の人々在搜索の結果自宅に落ちて溺死し居引揚げて應急手當が効なく即日平署受けた死因は精神的飛び込み自殺とある。

III

しまして依然と續けて居りましてはあります。よりまして紙年と共に益々ことは偏に愛向情の賜であります。

い地主の餅で寝ます。

と云へばうちでもさなるめが面倒餅にしようあいつるものよ

只四五升も唄うた

播種後の  
英の管理 (七)  
農試本場 海南子

それは土地に一度紫雲英が成長すると土中に根病菌が著しく増加するの結果となり從つて次年度からは紫雲英の生育が遅かに容易となるからである。春先は要注意すべきは動もすれば土地が乾燥に過ぎた爲めに十分なる繁茂をなし得ざるの場合がある殊に四月の末頃から五月に亘つて紫雲英が漸く莖葉の繁茂盛んとされる。従ひ葉面からの水分の蒸發が可成大量に上る事となり而かも此の期節に往々永く降雨を見ない氣候に會る場合が少なからず其の結果は土地の表層がひどく乾燥に過ぐるに至りために紫雲英の生長繁茂に一頃度論じたが然し此事は決して上中に水分の不必要なりと云ふ意味ではない余分な水は有害無益である其の生長に十分な水分を必要とすることは他の植物と何等異なる處はない此の點を混同してはならない。

春先を暫らく振りの雨を

溶びてからの二三日間の紫雲英の繁茂振りを見るが、如何に生氣溌濶として急激に生長するかを此の故に過ぎる場合は猶予なく灌水するを必要とする此場合には田の全面に灌水する要水するを必要とする此場合に水份が浸潤し而かも濕潤すれば足りるかくすれば田面に失せず植物の繁茂よろしきを得るであらう。（終り）